

令和2年5月27日

第22回につぼんど真ん中祭りの開催可否を判断するための諮問委員会

(1) 日時 令和2年5月27日(水) 13時～

(2) 場所 名古屋市役所 東庁舎 2階 議会運営委員会室

(3) 委員出席者

浅井 清文 委員 名古屋市健康福祉局医監兼名古屋市保健所長

○北川 喜己 委員 名古屋大学医学部附属病院特命病院長補佐  
名古屋掖済会病院副院長・救命救急センター長

中村 敦 委員 名古屋市立大学大学院医学研究科臨床感染制御学教授

松雄 俊憲 委員 名古屋市観光文化交流局長

八木 哲也 委員 名古屋大学大学院医学系研究科臨床感染制御学教授

○印：座長 (五十音順)

(4) 主催者側出席者

岡田 邦彦 公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団理事長

水野 孝一 公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団専務理事

野口 宏 公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団理事

愛知医科大学名誉教授

(5) 次第

1 主催者挨拶

公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団 理事長 岡田 邦彦

2 座長挨拶

北川 喜己 委員

3 自由討議

4 閉会挨拶

公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団 理事長 岡田 邦彦

## ◆第22回につぼんど真ん中祭りの概要

### (1) 開催日

- 2020年8月27日(木) 全国学生 No.1 決定戦 “キャンパスバトル”  
28日(金) 前夜祭  
29日(土) 県内各会場にて開催、一次審査を併催  
30日(日) 県内各会場にて開催、ファイナルコンテスト

### (2) 場所

中区・久屋大通公園を中心に、県内23か所(2019年実績)

### (3) 主催

公益財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団  
各会場は、地域ごとの実行委員会が主催

### (4) 参加者数, 来場者数, ボランティア数 (2019年実績)

参加者数 約2万人  
来場者数 約235万人(4日間, 全会場合計)  
ボランティア数 約6,950人(全会場合計)

### (5) 内容

- ・40人～150人程で編制されたダンスチームが、それぞれの地元の民謡を取り入れた4分程度の創作ダンスを作り、順に披露する。

## ◆検討項目

	例年の取り扱い	感染対策上の検討事項
<b>(1)祭りの開催方法</b>		
1	<b>開催日</b> 8月27日(木), 28日(金), 29日(土), 30日(日)	1日のみの開催など、開催日を限定することを検討。
2	<b>開催場所</b> ステージ：久屋大通公園, 他 道路：大津通, 名古屋駅, 道徳, 平針, 他	開催場所を限定することを検討。
3	<b>参加チーム</b> 全国から約210チームが参加 1チームあたり40-150人程度で編制 国内：東海地域を中心に、北海道から九州まで 海外：韓国, サイパン, 台湾など	海外や、感染拡大地域からの参加を不可とすることを検討。 各チームの、チーム構成員名簿の整備状況を確認。必要に応じて整備を求める。
4	<b>コンテストの実施</b> 優秀チームに賞を提供 (内閣総理大臣賞, 名古屋市長賞, 他)	ダンスに関するコンテストを中止することで、賞を目指すための練習を自粛させることを検討。
5	<b>フードコートの併催</b> 飲食店(食事, 飲料)の出店 飲食用座席は狭間隔, 対面で配置	フードコートの併催を取りやめたり、座席を間引いたりすることを検討。
6	<b>スポンサーブースの出店</b> 展示やノベルティの配布等	ブース出店を取りやめたり、配布物を自粛させたりすることを検討。
7	<b>ステージの運営</b> 4分のダンスと、1分のインターバル	出演中チームと、出演待ちチームが、ステージ裏で接触しないように、インターバルを長くすることを検討。
8	<b>有料観覧席(栈敷席)の設置</b> 80cm間隔で座席を設置	有料観覧席を廃止したり、座席間隔を広くとったりすることを検討。
9	<b>観覧スペース(無料, 先着順)の設置</b> 混雑時は入場規制することもある	観覧スペースにマスクを描いて定員制にしたり、事前申し込み制にしたりすることを検討。
10	<b>多数のボランティアが運営をサポート</b> 雑踏整理, 来場者対応, 環境美化等	ボランティアの運営サポートを無しにすることを検討。
11	<b>来場者にノベルティやガイドブックを配布</b> チーム演舞順スケジュール, ガイドブック, リーフレット, うちわ等の配布物を用意	配布物を無しにすることを検討。

12	祭りの名物「総踊り」 「総踊り」は演者のほか、観客も参加できる	密集、密接は避けられないことから、無しにすることを検討。
<b>(2)チーム運営</b>		
13	音楽、振付、衣装等の製作 チーム運営幹部の打ち合わせ 作品の製作	打ち合わせや、作品の製作の際は、3密を避けて、オンラインで取り組ませることを検討。 ダンスは、一定間隔あけることを意識した振付にさせることなどを検討。
14	練習 チームの練習は年中実施。祭りが近づくと毎日のように練習するチームもある。練習場は、小学校体育館やグラウンドを使うケースが多い	練習の際のルールを定めたり、練習を自粛させたりするなど、3密を避けることを検討。
15	祭りへの移動、会場間の移動 貸切バスや公共交通機関を使う	チームの移動方法を限定させたり、貸切バスを利用する際のルールを定めたりすることを検討。 その他、徒歩移動時の間隔や、少人数編制での移動をルール化すること等を検討。
16	食事会や打ち上げ会の実施 チーム全体や、少人数での食事会等	全体での食事会を制限させることを検討。
<b>(3)その他</b>		
17	近隣の百貨店や店舗の利用 来場者による、飲食店利用やトイレ利用	ボランティア、スタッフ、演者については、近隣百貨店等を利用しないように制限することが可能。
18	消防や医療者の支援 消防の協力、救急車の会場内待機 約100人の医療ボランティアの参加	催事規模を縮小することで、祭りの救急医療体制を縮小することを検討。
19	熱中症対策 踊る前後の演者に、経口補水を義務化	経口補水時に感染拡大しないように注意する。 マスク着用時の熱中症リスクを考慮する必要がある。

## ◆開催のパターン

### (1) 祭りの規模を縮小して開催

- ・場所：久屋大通公園のみ。他会場やフードコートは実施しない。
- ・日程：土日の2日間。
- ・観覧者：東海エリア在住者のみ観覧可。場内での観覧は事前申込制。申込者以外の入場を不可とする。
- ・参加者：東海エリアのチームのみ参加可とする。
- ・出演チームが密集しないように、来場時刻を指定する。
- ・審査を無しにすることで、ダンスの事前練習を極力行わないように求める。
- ・ボランティアは募集しない。

#### (懸念点)

- ・居住地は自己申告になることから、完全な運用は難しい。
- ・事前申込の無い観覧者が、多く来場することが想定される。
- ・入場できない観覧者が、百貨店等の近隣店舗に滞留することが想定される。

### (2) 公園での祭りは開催せず、各チームが事前撮影した映像を繋いで、オンラインで祭りを開催

- ・久屋大通公園等の会場は使用しない。
- ・練習ができる地域では、それぞれのチームがダンスを撮影して、事前に事務局へ送付。  
祭り開催日時に合わせてオンライン配信する。

#### (懸念点)

- ・チームがダンス映像を撮るためには、体育館などの施設で練習会を開く必要がある。
- ・練習会や撮影会は、3密対策をとったうえであれば、開催してもよいものなのか。

### (3) 公園での祭りは開催せず、当面の間、チームの練習会も認めない

- 「新しい生活様式」に基づき行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等を避けるなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。イベント主催者や出演者は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、参加者の連絡先把握、接触確認アプリの周知、イベント前後の感染対策（行動管理含む）の呼びかけ。
- 感染拡大の兆候やイベント等でのクラスターの発生があった場合、イベントの無観客化や延期、中止等も含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターの発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。
- 今後、感染状況等に変化がみられる場合、段階的解除の目安の変更や必要な対策等を通知。

< 基本的な考え方 >

時期	収容率	人数上限
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	屋内 50%以内 屋外 十分な間隔 *できれば2m	100人 200人
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	屋内 50%以内 屋外 十分な間隔 *できれば2m	1000人 1000人
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	屋内 50%以内 屋外 十分な間隔 *できれば2m	5000人 5000人
【移行期間後】 感染状況を見つつ、 8月1日を目途 *ステップ③から約3週間後	屋内 50%以内 屋外 十分な間隔 *できれば2m	上限なし 上限なし

(注) 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。

## イベント開催制限の段階的緩和の目安（その2）

○ イベント主催者は、特に、全国的な移動を伴うものには格段の注意。イベント参加者は、自身が感染対策を徹底していても、感染リスクはあることに留意。また、発熱等の症状がある者はイベントに参加しない（無症状で感染させる可能性も）。

### ＜具体的な当てはめ＞

時期	コンサート等	展示会等	プロスポーツ等 (全国的移動を伴うもの)	お祭り・野外フェス等
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	○ 【100人又は50%】 (屋外200人) *密閉空間で大声を発するもの、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応、音楽器にも注意	○ 【100人又は50%】 *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応	×	△ 【100人又は50%】 (屋外200人) *特定の地域からの来場を見込み、人数を管理できるものは可
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	○ 【1000人又は50%】 *密閉空間で大声を発するもの、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応、音楽器にも注意	○ 【1000人又は50%】 *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応	○ 【無観客】 (ネット中継等) *無観客でも感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手等の行動管理	×
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	○ 【5000人又は50%】 *密閉空間で大声を発するもの等は、厳格なガイドラインによる対応 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)	○ 【5000人又は50%】 *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)	○ 【5000人又は50%】 *感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手・観客等の行動管理 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)	○ *特定の地域からの来場を見込み、人数を管理できるものは可
【移行期間後】 8月1日 を目途 *ステップ③から約3週間後	○ 【50%】 *密閉空間で大声を発するもの等は、厳格なガイドラインによる対応 *GoToキャンペーンによる支援	○ 【50%】 *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応 *GoToキャンペーンによる支援	○ 【50%】 *感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手・観客等の行動管理 *GoToキャンペーンによる支援	△ 【十分な間隔】 (できれば2m) *感染状況を踏まえて、判断。

(注)どちらか小さい方を限度。他の場合も同様。

## 外出自粛の段階的緩和の目安

- 「新しい生活様式」に基づく行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等を避けるなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。
- 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、外出自粛の強化等を含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターによる発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。

時期	外出自粛	観光
	県をまたぐ移動等	
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	△ * 不要不急の県をまたぐ移動は避ける（これまでと同じ）。	△ * 観光振興は県内で徐々に、人との間隔は確保
ステップ① 6月1日～	○ * 一部首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）、北海道との間の不要不急の県をまたぐ移動は慎重に。	
ステップ② 6月19日～ * ステップ①から約3週間後		△
ステップ③ 7月10日～ * ステップ②から約3週間後	○	* 観光振興は県をまたぐものも含めて徐々に、人との間隔は確保 * GoToキャンペーンによる支援（7月下旬～）
【移行期間後】 感染状況を見つつ、 8月1日を目途 * ステップ③から約3週間後		○ * GoToキャンペーンによる支援



# クラスター発生施設等に係る外出自粛や休業要請等の段階的緩和の目安

- 「新しい生活様式」に基づく行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等 evitar するなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。施設管理者等は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、施設利用者等の連絡先把握や接触確認アプリの周知。
- 持続化補助金の中で、施設の感染防止の取組を支援。
- 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、施設の使用制限等を含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターによる発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。

時期		クラスター発生施設等への外出自粛・休業要請等
		カラオケ、スポーツジム等（注）
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	接待を伴う飲食業、ライブハウス等	×～△ * 知事の判断。 * 業種別ガイドラインの作成。
ステップ① 6月1日～	* 知事の判断。 * 業界や専門家等による更なる感染防止策等の検討。	
ステップ② 6月19日～ * ステップ①から約3週間後		○ * 人数管理・感染防止策を徹底し、厳密なガイドライン等を遵守。知事の判断。
ステップ③ 7月10日～ * ステップ②から約3週間後	* 感染防止策を徹底し、厳密なガイドライン等を遵守。知事の判断。 * クラスターが発生した場合には休業要請等を検討。	○ * クラスタが発生した場合には休業要請等を検討。
【移行期間後】 感染状況を見つつ、 8月1日を目途 * ステップ③から約3週間後	* クラスタが発生した場合には休業要請等を検討。	

（注）バーやその他屋内運動施設等も含まれる。



# 令和2年度の 熱中症予防行動

環境省  
厚生労働省  
令和2年5月

## 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

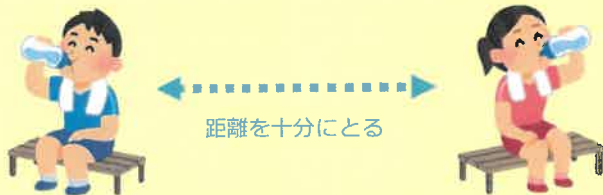
新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

### 1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する



### 2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

### 3 こまめに水分補給しましょう



- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

### 4 日頃から健康管理をしましょう



- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪く感じた時は、無理せず自宅で静養

### 5 暑さに備えた体作りをしましょう



- ・暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



環境省



厚生労働省

新型コロナウイルス感染症に関する情報：

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbgt.env.go.jp/>

